

平成 28 年度ハイキングレスキュー講習会の報告

日本山岳会埼玉支部安全登山委員会では、会員および一般の方を対象として、登山の安全に資するよう毎年、様々な講習会や講演会を開催しています。ハイキングレスキュー講習は、最近の山での事故の実状（道迷いがとても多い！）を踏まえて、登山をしていたら誰でも遭遇しうる事態を想定し、その備えとして事故にあわないように知っておくべき知識や万一事故にあってしまった場合のセルフレスキューのスキルについて学んでいます。

誰しも自分だけは事故にあわないと思っているものです。しかし、誰かが事故にあうのです。日頃から学習し、準備し、そして山では慎重に行動するしか事故は防げません。

6月4日のハイキングレスキュー講習会の様子を報告しますので参考にされ、次回の講習会には是非ご参加ください。（毎年、この時期に開催しています）

1. 実施日 平成 28 年 6 月 4 日（土）9：30～16：20
2. 場所 飯能市市民会館および天覧山付近の山中
3. 講師 瀬藤 武氏（埼玉県山岳連盟・遭難対策委員長）
4. 講習内容

（1）机上講習

分かりやすいレジュメが配られ、まずはセルフレスキューとは何か、必要な装備、現場での活動の基本など基礎知識をしっかりと学びます。

いざという時のツェルトの使い方、ツェルトを利用した負傷者の搬送のやり方を学び、実際にやってみます。登山道から転落した仲間を安全な場所まで運ぶためのスキルです。ストックの上手な活用方法や、ザックを利用した搬送方法も学びました。現場で上手く使えるか？ それは午後の野外での実習で試してみましよう。





(2)屋外講習

まず講師から1万分の1と5千分の1の地図を渡され、全員で天覧山ふもとの能仁寺から左に山の中に入る。地図を見ながら歩き、各分岐で今いる自分の位置を確認しながら、周りの地形も把握する。

登山途中で休んだ時は、必ず地図を見て、今いる場所を確認するようにとのことです。特に里山の登山道は樹林で視界が狭まり、遠望の景色を基準にしての自分の位置の確認は難しい。地図とコンパスは山には必携である。

道が分からなくなったら、日本では沢に降りるな、上に行けと指導している。山岳信仰があった日本の山では、祠や道を見

つけることができやすい。分岐が出てきたら標識の矢印の方向へ行くこと。里山では、縦横無尽に獣道や間違っ

次に山間の平地を利用して、2班に分かれツェルトを張ってビバークの練習をする。2人用と3人用で、各班工夫を凝らし、より快適なテントづくりをする。立ち木にロープで固定し反対側はストックを1本立てて屋根をピーンと張る。皆で中に入り体感する。ビバークで心配なのは体の冷えだ。服を重ね着したり、靴下は意外と濡れているので履き替え、ひもを緩め靴は脱がない。風や雨で体を冷やさないことが大事だ。最後に2枚のツェルトを担架にして各班で負傷者の搬送を山中でする。辺りを一周するだけで6人の腕はかなり疲れる。山でのセルフレスキューは皆が協力し合わなければ無理である。



最後に、

- ・セルフレスキューの重要性
 - ・ツェルトの使い方を初めて知った。
 - ・創意工夫した装備や技術を学べた。
 - ・地図の読み方をきちんと学びたいと思った。
 - ・ロープワークの基本を学びたい。
 - ・読図講習を受けたい。
- など多くの意見が述べられた。